DX推進の鍵は
全社『DX自分事化』と、DX推進者への実践教育

～公開セミナーDXコース開発者・講師インタビュー～

全社でDXを推進するにあたっては、第一歩として、

全社員※がデータとITについて最低限の知識をつけ、

DXの共通言語化をすることが重要です。

JMAMビジネスカレッジでは、DX推進において特に学習ニーズの高い、

以下の３つのテーマに沿った公開セミナーコースをご用意しました。

ぜひ、貴社のDX推進にお役立てください。

※雇用形態を問わない全従業員

DX推進担当、実践者向け教育におすすめ

- IT起点で業務変革する **DX推進人材養成コース**（1日）
- Excel活用 **データ分析基本コース**（1日）

全社DX・デジタルリテラシー教育におすすめ

- 最新技術動向から学ぶ **DX早わかりコース**（半日）

最新技術動向から学ぶ DX早わかりコース（半日間）

IT関連の最新の技術動向と事例を学び、DXへの流れを整理できるセミナーです。
初心者の方でも、IT化とDX化の違いやDXへの道筋まで半日間で早わかりできます。

https://www.jmam.co.jp/hrm/course/onlinebizcall/dhoa.html

Excel活用 データ分析基本コース（1日間）

これからのDX対応で期待されるデータ分析の基本知識やスキルを理解し、
データ活用に向けた一歩を踏み出します。
Excelを使って身近なデータを実際に分析する、ハンズオン型のセミナーです。

https://www.jmam.co.jp/hrm/course/onlinebizcall/deoa.html

IT起点で業務変革する DX推進人材養成コース（1日間）

部門リーダーとして、IT起点で業務変革を実現できる総合力を強化し、
DX推進へと踏み出します。
DX推進の方法だけではなく、推進のための組織体制、阻害要因なども学べます。

https://www.jmam.co.jp/hrm/course/onlinebizcall/dxoa.html

JMAM 株式会社 日本能率協会マネジメントセンター

わかりやすく楽しい公開セミナーで DXの「自分事化」と「推進力」が身につく

「DX推進」が多くの企業で課題となるなか、（株）日本能率協会マネジメントセンターは2023年2月、『DX早わかりコース』『データ分析基本コース』『DX推進人材養成コース』というDX系公開セミナー（公開講座）を3コース開講し、受講者から高評価を得ています。
そこで、それぞれのコースのコンセプトや内容、また楽しく学べる講座をどのように作り上げているか等について、コース開発者で講師の森田昇氏に聞きました。

「人」と「技術」を結びつける DX 推進人材が必要

――約20年間、IT業界でアプリケーションのエンジニアとして、開発段階からシステム運用まで従事され、独立後もITやマネジメント領域での講師業をされてきました。まず最初に、そうしたご経歴をお持ちの森田さんが考える「ビジネスパーソンがDXを学ぶ必要性」について、お聞かせください。

多くの企業で課題となっているDXの推進に向け、「全体最適化」の観点や変革のマインドを全社に共有し、組織の各階層へ浸透させるためには、**DX推進人材には専門的な知識、そして全社員にはITとDXに関する最低限の知識を学ぶことがいまや、不可欠になっています**。

そもそもDXとは、ITによってデジタル化されたデータを活用し、ビジネスを変革していくものです。単純にIT化を進めればDXが推進できるわけではありません。しかし、DXを推進するためには、前提としてIT化を進めなければなりません。

株式会社
日本能率協会マネジメントセンター
パートナー・コンサルタント
森田 昇 氏

大学卒業後、IT業界で幅広い業界の開発プロジェクトをプロジェクトリーダー、マネジャーとして牽引。10回目の転職を経て独立し、現在は講師業の他、各種セミナーのスピーカー、経営コンサルタントとしても活躍中。

というのも、エンジニアとして私自身、製造、流通、出版、金融など、幅広くIT化による「業務改善」と「生産性の向上」のプロジェクトに携わりましたが、とても多くのケースが、「部分最適化」などによって、“データを利用する人の視点”が抜け落ち、本来目指すべき全体最適化に向けた変革がなされませんでした。

この事態を防ぐためには、システム・技術の知識に精通している「IT人材」だけではダメで、組織論や戦略などに精通する「DX推進人材」がいて、「人」と「技術」をつなぐ必要があるのです。そうした背景や経験を基に、DX関連の３コースを作りました。

DX を「使う人」と「企画する人」の育成につながる３コース

――『DX早わかりコース』『データ分析基本コース』『DX推進人材養成コース』の３コースですね。開発のみならず、自ら講師もされています。各コースのコンセプトや魅力をお聞かせください。

（1）『最新技術動向から学ぶ DX早わかりコース』

まず「DX早わかりコース」は、初心者の方向けに、DXを身近に感じてもらうことに主眼を置いています。前半部分では、DXを理解する前提となるIT化の歴史や最新IT技術等に関する知識を学習し、ITサービスやデジタルツールへの理解を深めていきます。

後半では「DX」「デジタル化」「自動化」と「IT化」の違いを知ることで、DXの定義や必要性を理解した後、IT化は業務効率化であり、DXはビジネスモデルや企業そのものを変革していくことであると学びます。

(2)『Excel活用 データ分析基本コース』

ビジネスの意思決定はデータが基になるべきであり、データ分析の知識はビジネスパーソンにとって必須のスキルです。「データ分析基本コース」は“データ分析の体験”をコンセプトに、「PPDACサイクル※」に基づいて開発しました。そして**DXも“データありき”。課題解決に向けた仮説検証、データ収集、課題の抽出など、データ分析の目的や手法について学んでいきます**。

実際にExcelを使いながら進めるコースですが、関数やグラフ作成も、初歩的な操作から入りますので、Excelの操作が不慣れな方でも楽しく学べます。

最終的には、「標準化」などを使ったデータ分析の手法や考え方を習慣化するとともに、データを解釈するための広い視点を獲得することをゴールとしています。

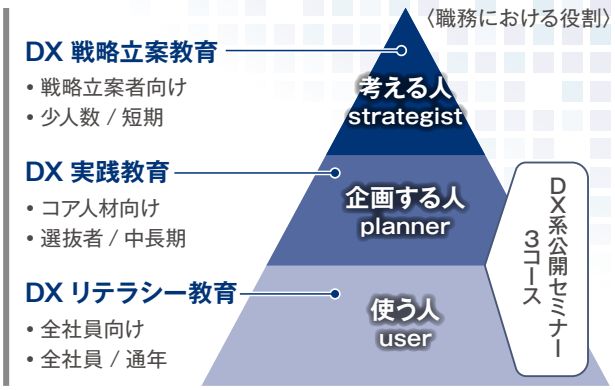
※「Problem(問題)」「Plan(計画)」「Data(データ収集)」「Analysis(分析)」「Conclusion(いったんの結論)」で探究する課題解決フレームワーク。

(3)『IT起点で業務変革する DX推進人材養成コース』

「DX推進人材養成コース」は、経営層から「DXを進めて」と言われたものの、具体的に何から始めるべきか悩んでいる方にピッタリなコースです。DX推進の旗振り役として“最初の一歩”を踏み出し、社内に波及させる人材の養成を想定し、DX企業の特徴であるデザイン思考やイノベーション、ビジネスモデルをDXで変革する場合の考え方、DXを推進するうえで知っておくべき組織論、具体的に自社内でどの業務をDX化するべきかの仮説検証などについて学びます。DXは難しく考えられがちですが、これら3コース全てを受講し、DXを知って身近に感じることで、**“DXの自分事化”や、“社内でDXを推進する力”を身につけることができます**。

ちなみに、DX推進に関わる人は「考える人(経営層)」、「企画する人(推進役)」、そして、「使う人(全社員)」の3つのステージに分けることができます(**図**)。そして、本3コースは「使う人」と「企画する人」向けなのですが、基礎教育として『DX早わかりコース』を全社員に受けてもらい、「DXの共通言語化」と「デジタルリテラシーの向上」を進め、他方で旗振り役の方に『データ分析基本コース』『DX推進人材養成コース』を受けていただくことで、「企画する人」への育成を進めながらDXを推進していく、というのが、推進の1つのモデルケースとして考えられます。

図　JMAM の考える DX 教育体系ピラミッドモデル



飽きずに楽しく学べる講義のヒミツ

――多くの受講者から「講義がわかりやすい」「飽きずに受講できた」などご好評をいただいています。「伝え方」で工夫されていることはありますか。

「危機感」と「楽しさ」の両面からDXの重要性を伝えることを意識しています。特に「楽しさ」でいえば、何かを例える際、スポーツや漫画などのサブカルチャーなどから受講者の記憶に定着しやすい例を挙げ、興味や発想を広げてもらうことを心がけています。

たとえば、30代前半の受講者が多い日であれば、『ソードアート・オンライン』を例に挙げて、「DXの行きつく先はナーヴギアです!」と話せば、場が湧きます(笑)。もう少し上の世代が多いときには『ドラゴンボール』で何でも例えたり。

幅広い年齢の方々が受講されるため、世代ごとに刺さる話題も異なります。そこで、グループワークの会話に出てくる話題やキーワードを聞き逃さないようにしています。

――演習をグループワーク(ブレイクアウト)で進めることも好評なようです。

教え合ってもらうと講師が楽、ということもありますが(笑)、皆で1つの課題に取り組んでいただくことで集中できます。皆さん結構、楽しそうに学習されています。**他社のDXの推進状況をディスカッションの中で聞けるのがよい、という声もあります**。

また、グランドルールとして、守秘義務は勿論、受講者には所属する企業や肩書を言わないようにお願いしていま

す。受講者間の（取引）関係等によって、学びが妨げられることがあるためです。フラットな状態で学び、仲間として認識してもらいながらディスカッションできる雰囲気と場づくりを大切にしています。

――最後に、最新技術の動向について、講義内でよくお話しされています。どのように情報収集されているのですか。

基本的にネットのメディア記事を読みますが、DXに関連することばかり調べていると、それしか出てこなくなります。デジタル社会の弊害ですね。そこで情報の一覧性が高く、欲していない情報も強制的に目に入る新聞や雑誌などを、あえて“紙媒体”で読んでいます。

もう１つは、ITやDX以外の分野で最新情報を発信している人に会いに行ったり、セミナーを聞いたりします。IT以外の知見を得ることで、DXへ紐付けるアイデアの着想を得ることができます。受講者への有益な情報提供の観点からも、重要な作業だと考えています。

――本DX系公開セミナーでは、安心な学習環境下で、DXを楽しく自分事化し、よく学ぶ師に学べるのですね。本日はありがとうございました。

好評です！ 受講者の声

● 最新技術動向から学ぶ DX 早わかりコース

DX推進には、組織全体でDXに対する理解を深めること（いきなり高度なことは行えないので、**デジタル感度をデジタル化を進めながら高める**）が大切であると理解しました。また、身の回りのDXを抽出することからもDX理解が深まりますが、グループワークを通じて行うところに、**既成概念を破るヒント**があるように感じました。

● Excel 活用 データ分析基本コース

今までの業務上でデータ分析をしてきたつもりではいましたが、**仮説検証の重要性やExcelの使い方の新たな知識**を得られて非常に有意義でした。

分析がゴールではなく、データを活用して**意思決定の質とスピードを上げることが目的であることを改めて認識**することができました。今後の業務でも何のために行う分析なのか、目的意識をもって取り組みたいと思います。

● IT 起点で業務変革する DX 推進人材養成コース

この講座を受けたことで、自分がDXをいかに難しいものだととらえていたかがわかりました。まずはデータ化し、収集をし…と細かなステップを教えていただいたので、全社改革をするんだ! と意気込まず、**自分に出来ることからDXに繋げていこう**と思いました。
講師のお話も大変親しみやすく楽しかったので、1日講座でしたが、あっという間に感じました。

JMAM 株式会社 日本能率協会マネジメントセンター
〒103-6009　東京都中央区日本橋2-7-1 東京日本橋タワー
TEL（03）6362-4343（平日9：00～17：00）　ホームページ　https://www.jmam.co.jp/